

オモダカの塊茎で「おせち」は作れるか？

江別市 大沼 弘樹

おせち料理の定番食材のひとつに「くわい」があります。食材としての「くわい」は、オモダカ科オモダカ *Sagittaria trifolia* L. の栽培品種であるクワイ 'Caerulea' の塊茎で、多年生の抽水～湿性植物として知られています（角野 2014）。一方で、クワイの原種とされるオモダカは、北海道を含む日本各地に自生し、除草剤耐性を持つ系統もある事から、水田では厄介な雑草になっています（山河・伊藤 2004）。

筆者も、知人の水田除草作業を手伝う折、水稻苗を追い抜く様に育つオモダカを抜く事がありますが、泥中から綺麗に抜けた個体の地下には、クワイのミニチュアのような塊茎が付いている姿が見られます。ちょうど、年末のスーパーで見かけるクワイの芽の部分が、そのまま伸びて、泥上へ展葉

しているかのようなのです。そんなオモダカの姿を見て、5年程前のある時「オモダカも、クワイと同じように食べられるのでは？」と閃きました。

早速、水田の持ち主に許可を頂いて、駆除したオモダカを3株ほど泥に包んで自宅へ持ち帰り、裏庭の土を8分目まで入れたバケツで栽培してみました。ちなみにオモダカは、形質が遺伝的に安定した種内変異が多い事で知られており（山河 1991）、地上部を一見するとクワイと区別しがたい集団もありますが、今回栽培に用いたのは、葉身が細めで盛んに開花し、生育する水田での草丈は30cm内外に留まるタイプでした（クワイはより大型で葉幅が広い傾向）。以上の事から、何らかの理由で野生化したクワイと誤認した可能性は低いと考えられ



図1 水洗いしたオモダカの塊茎

ます。

栽培を開始したのは6月半ば頃だったように記憶しています。栽培期間中は常に水深1-5cm程度を維持し、特に肥料は与えませんでした。オモダカは順調に生育し、7月頃から盛んに開花を続け、9月には草丈25cm程度に達しました。10月には葉が枯れたので、11月にバケツをひっくり返すと、バケツの縁に面した泥に沿って、球状部分の直径が1-2cmの塊茎が20個程収穫できました。塊茎は親株の根本ではなく、泥の中へ四方に這い出た走出枝先端に1個ずつ形成されているため、株元を持って引き抜いても、塊茎はほとんど付いてきません。

収穫した塊茎を水洗いしたのが図1ですが、スーパーでよく見る、所謂「青くわい」と呼ばれる系統とよく似た色、姿をしていて、尖った芽もしっかり確認できます。収穫した塊茎で、さっそく「オモダカの含

め煮」を作ってみました。クワイを使う場合は、皮と芽の先端を削ぎ落してから調理するのが一般的ですが、豆粒サイズのオモダカの塊茎は、剥くと無くなってしまいそうです。とりあえず良く洗って、塊茎の節に付いている薄皮を取り除き、そのまま水を張った鍋に入れて火にかけました。沸騰して15分くらい煮立たせてから熱湯を捨て（これがベストかどうか分かりませんが…）、インターネットで調べたクワイのレシピを参考に調理してみた結果が図2です。

少し冷めて、味が染みた頃に恐る恐る食べてみると…味も食感も、ほぼクワイそのもの！栽培品種のクワイに比べると、やや苦味が強いように感じられましたが、サイズを除けばクワイの含め煮と遜色ないものになりました。苦味を強めに感じたのは、皮を剥かなかつた事で灰汁が抜け難かったためかもしれません。



図2 オモダカ塊茎の含め煮

年末には少々早い実験でしたが、クワイならぬ「オモダカの塊茎でおせちは作れるか？」作戦は、とりあえず成功と言えそうです。ただ、労力と塊茎の大きさ、味のバランスを考えると、あまりお勧めできるものではありません。昔の人は、こうしてオモダカを掘って食べているうちに、大きくて味の良いものを選び抜いて、クワイという作物を確立していったのだろうか、等と想像が膨らむ体験でした。

最後に、念のため書き添えておきますが、野生植物の含有成分については詳しく調べられていないものも多く、使い方によっては薬になるものもあれば、思わぬ害を及ぼすものもあります。健康への影響には個人差もあります。また、水田や農耕地等で採集された雑草については、残留農薬等の影響も考えられます。そのため、今回の実験

に際しては、毒性等のリスクについて事前に調べた上で、自宅で栽培した個体を少量かつ1回限り、試食に用いることとしました。この試食レポートは個人の体験談であり、野生植物の試食を安易に勧めるものではないことを記します。あくまで娯楽としてご覧ください。

(北海道医療大学薬学部附属薬用植物園)

引用文献

- 角野康郎．2014．ネイチャーガイド日本の水草．文一総合出版，東京．
- 山河重弥・伊藤一幸．2004．雑草モノグラフ2．オモダカ (*Sagittaria trifolia* L.)．雑草研究 49 (3)：206-219．
- 山河重弥．1991．水田多年生雑草オモダカ (*Sagittaria trifolia* L.) の種内変異．雑草研究 36 (1)：8-16．